

H27-B-1 深度75.57~76.00m 破碎帯名 (No.51) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-189頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15 非モデル化破碎帯  
性状一覧表(17/19)

断面図上の番号	破砕帯番号	破砕帯範囲 上端深さ(10m) 下端深さ(10m)	走向	傾斜	破砕帯 幅(m)	破砕帯 厚(m)	破砕帯 高さ(m)	破砕帯 形状	破砕帯 方向	破砕帯 水深	写真	
⑤	H27-B-1 (No.45)	48.17 48.32	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	49
⑥	H27-B-1 (No.45)	53.72 52.81	N15E	82E	7.2	-	-	-	10R	-	左	52
⑦	H27-B-1 (No.45)	53.17 53.22	N27E	64W	4.8	0.2	無	-	30	正	-	53
⑧	H27-B-1 (No.45)	68.70 68.73	N25E	82E	2.4	0.1	無	-	30L	-	右	69
⑨	H27-B-1 (No.45)	74.20 74.20	N10E	85W	10.7	0.7	無	-	30L	-	右	74
⑩	H27-B-1 (No.45)	75.57 76.00	N42E	87W	18.2	-	-	-	30	逆	-	75
⑪	H27-B-1 (No.45)	78.72 78.87	N17E	71E	13.1	0.2	無	-	30L	正	右	78
⑫	H27-B-1 (No.45)	113.51 113.60	N21E	89E	8.3	0.2	無	-	30L	正	右	113

破砕帯番号	上端深さ(10m)	下端深さ(10m)	走向	傾斜	破砕帯幅(m)	破砕帯厚(m)	破砕帯高さ(m)	破砕帯形状	破砕帯方向	破砕帯水深	写真	
H27-B-1 (No.45)	75.57	76.00	N44E	72E	18.2	無	無	-	30R	逆	f-d1-11	
H27-B-1 (No.45)	78.72	78.87	N17E	71E	13.1	有	有	0.2	30L	正	79	
H27-B-1 (No.45)	83.38	83.41	N28E	86E	2.3	有	有	0.2	90	正	f-d1-10	
H27-B-1 (No.45)	113.51	113.60	N21E	89E	8.3	有	無	-	30L	正	78	
H27-B-1 (No.45)	118.84	119.12	N28E	79E	15.1	有	有	1.5	30L	正	右	D-41
H27-B-1 (No.45)	130.82	130.88	N27E	88E	4.4	有	無	-	30L	正	右	D-42

No.51 a  
f-d1-11

(No.48で説明)

(No.49で説明)

(No.50で説明)

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を修正した値を記載  
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
 -(上記以外): データを取得していない箇所

凡例  
 - 最新活動面  
 ← → : 破砕帯  
 - 断層ガウジ  
 ○ : 粘土の存在が認められる箇所  
 ← → : 破砕帯  
 カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す  
 - 断層角礫

第7.4.4.413図 (3) 破砕部性状一覧 (H27-B-1)  
6-7-1591

【破砕帯】  
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部  
 面化した粘土状破砕部、面化した砂状破砕部、面化した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
 【平滑さ】  
 平滑：最新活動面が直線的なもの  
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの  
 参考2-189

H27-B-1 深度75.57~76.00m 破砕帯名 (No.51) の変更

• 変更したデータを用いて、当該破砕部の連続性について再評価を行ったところ、f-D1-1-11破砕帯に連続すると評価した。

起点	対比するボーリング孔	連続性 検討範囲	断面図上の 番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に 形成された 破砕部の性状等 注) 1	連続性 検討結果	破砕帯名		
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	明瞭な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ					
				(m)	(m)													
H27-B-1	-	-	㉔	75.57	76.00	N44E		72E		無	-	88R	N		x	f-d1-1-11		
-	H24-D1-1	範囲外	①-1	45.91	45.94	N12W	56	79W	29	無	-	37L	N, LL		x	f-d1-1-1-1		
			①-2	46.30	46.45	N57E	13	33NW	75	無	-	81R	N		x	非モデル化		
			①-3	47.64	47.75	N1E	43	58W	50	無	-	30R	N, LL		x	非モデル化		
			②	49.20	49.91	N9W	53	74E	2	有	無	90	N		x	非モデル化		
			③	53.77	54.54	N22E	22	75E	3	有	無	75R	N		x	非モデル化		
			④	58.96	59.30	N8E	36	78W	30	有	有	-	N		x	非モデル化		
			⑤	60.12	60.15	N9E	35	88W	20	有	有	80L	N		x	D-1		
			⑥	68.84	69.20	N61W	105	83N	11	有	無	7R	LL		x	非モデル化		
			⑦	78.77	79.19	N4E	40	78E	6	無	-	45R	R, RL		x	非モデル化		
			⑧	81.20	81.42	N29W	73	79W	29	有	無	0	LL		x	非モデル化		
	-	範囲内	範囲内	⑨	89.91	89.95	N23W	67	86E	14	有	無	33L	N, RL		x	D-33	
				⑩	90.26	90.84	N53W	97	80NE	8	有	有	75L	N		x	f-d1-1-10	
				⑪	91.26	91.52	N31E	13	83SE	11	無	-	75L	N		○	f-d1-1-11	
				⑫	93.12	93.24	N11E	33	83E	11	無	-	85L	N		x	非モデル化	
				⑬	99.68	99.71	-	-	-	-	有	無	90※	N	※ 3	x	非モデル化	
				⑭	31.15	31.66	N7E	37	78W	30	有	無	80L	N		x	非モデル化	
		-	範囲内	範囲内	①	34.37	34.48	N18E	26	46W	62	有	無	0	LL		x	非モデル化
					②	35.36	35.46	N69E	25	79N	29	無	-	10R	RL		x	非モデル化
					③	35.68	35.73	N7W	51	52W	56	有	無	70R	N		x	非モデル化
					④	35.92	35.95	N4E	40	86E	14	無	-	50L	N, RL		x	非モデル化
					⑤	48.08	48.12	N38W	82	15NE	57	無	-	0	LL		x	非モデル化
					⑥	54.72	54.77	N8W	52	79W	29	有	無	0	LL		x	非モデル化
⑦	60.26				60.69	N31E	13	88SE	16	無	-	75L	N		x	非モデル化		
-	範囲外		範囲外	⑧	61.29	61.69	N8E	36	89W	19	有	有	90	N		x	D-1	
				⑨	63.75	63.85	N47W	91	24NE	48	無	-	36L	R, LL		x	非モデル化	
				⑩	68.02	68.06	N23E	21	74W	34	無	-	90	N		x	非モデル化	
				⑪	85.58	85.76	N20E	24	89E	17	無	-	15L	RL		x	非モデル化	
				⑫	88.38	88.43	N26E	18	84E	12	有	無	30L	N, RL		x	D-41	
				⑬	88.88	88.94	N35E	9	72NW	36	有	有	25L	N, RL		x	f-b-2-14	
				⑭	91.69	91.76	N5W	49	82W	26	無	-	30R	R, RL		x	非モデル化	
				⑮	120.63	120.65	N34E	10	77NW	31	無	-	30L	R, LL		x	非モデル化	
				⑯	127.41	127.48	N18E	26	82E	10	無	-	20L	RL		x	D-42	
				⑰	128.82	128.97	N28E	16	81E	9	有	無	20R	RL		x	f-b-2-18	
				⑱	133.75	133.92	N6E	38	84E	12	無	-	22L	RL		x	非モデル化	
⑲	134.15	134.23	N12E	32	66E	6	有	有	82L	N		x	f-b-2-20					
⑳	152.10	152.15	N28E	16	84E	12	無	-	30L	R, LL		x	f-b-2-21					
㉑	154.53	154.71	N42E	2	75SE	3	有	有	75R	N		x	f-b-2-22					

注)1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

※ 3 : 熱水変質等の規模や特徴が起点の破砕部と類似している。

- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内の可能性のあるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・破砕帯名を「f-b-2-18」に変更（No.76）

【理由】H24-B14-2孔の破砕部データが変更されたことにより破砕帯分布を見直した結果、単独の破砕帯と評価されたことから、破砕帯名を「f-b-2-18」に変更した。

【断層連続性評価への影響】あり

**2. 変更箇所**

a 破砕帯名を「f-b-2-18」に変更（No.76）

H27-B-2 深度128.82~128.97m 破砕帯名 (No.76) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合  
机上配布資料2  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について  
参考資料2 性状一覧表  
参考2-115頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

10. D-29~D-47破砕帯  
性状一覧表(9/10)

破砕帯名 層別 番号	破砕帯範囲 上層深度(下層深度)		走向	傾斜 (cm)	破砕帯幅 平均値 (cm)	断面形状 断面形状	最新活動面 測定方法		非滑さ	方位		方位		写真
	方位	傾斜					方位	傾斜		方位	傾斜			
D-44 H27-B-2 (傾斜45°)	128.82	128.97	N26E	81E	12.1	0.5	無	非滑さ	20R	正	右	-	128	
D-44 H24-B1 (傾斜45°)	49.50	N46E	85E	25.4	2.5	有	非滑さ	75L	正	-	-	49		
D-45 H20-T1-9 (傾斜45°)	43.17	43.24	N14E	76W	3.5	2.0	有	非滑さ	48L	-	-	-	44	
D-45 H27-D5-1 (傾斜45°)	20.11	20.44	N31E	81W	4.2	1.5	無	非滑さ	81L	正	-	-	25	
D-45 H20-T1-10 (傾斜)	48.10	48.24	N8E	77W	3.9	-	-	非滑さ	80R	-	-	-	48	
D-46 H27-D5-1 (傾斜45°)	45.12	45.37	N38E	72W	7.7	1.0	有	非滑さ	80R	正	-	-	45	
D-46 H20-T1-10 (傾斜)	55.99	56.05	N46E	80W	1.3	1.3	無	非滑さ	81L	-	左	-	55, 56, 57	

- 最新活動面
- 破砕帯
- 破砕帯幅
- 断面ガウジ
- 粘土の塊状物が認められる箇所
- \*1: 震源
- \*2: 震源軸

【破砕帯】  
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、  
固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯  
の合計の幅とし、破砕帯の走向傾斜から真の幅に換算した。  
【非滑さ】  
平滑：最新活動面が直線的なもの  
非平滑：最新活動面が湾曲するもの  
参考2-115

破砕帯名 層別 番号	破砕帯範囲 上層深度(下層深度)		走向	傾斜 (cm)	破砕帯幅 平均値 (cm)	断面形状 断面形状		非滑さ	方位		方位		写真	
	方位	傾斜				方位	傾斜		方位	傾斜				
H27-B-2 (傾斜45°)	127.41	127.48	N18E	82E	5.6	無	無	無	20L	-	右	-	127	
H27-D-8 (傾斜45°)	128.82	128.97	N26E	81E	12.1	有	有	0.5	20R	-	右	-	128	
H27-B-2 (傾斜45°)	133.75	133.82	N5E	84E	15.4	有	無	-	22L	-	右	-	133	
H27-B-2 (傾斜45°)	134.19	134.23	N12E	66E	7.4	有	有	2.0	82L	正	-	-	134	
H27-B-2 (傾斜45°)	152.18	152.15	N26E	84E	4.0	有	無	-	30L	逆	左	-	152	
H27-B-2 (傾斜45°)	154.53	154.71	N42E	75SE	15.7	有	有	0.5	75R	正	-	-	154	

No.76  
f-b-2-18  
a

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を修正した値を記載  
※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
(上記以外): データを取得していない箇所

- 最新活動面
- 破砕帯
- 破砕帯幅
- 断面ガウジ
- 断面角礫

H27-B-2 深度128.82~128.97m 破砕帯名 (No.76) の変更

• 変更したデータを用いて、当該破砕部の連続性について再評価を行ったところ、f-b-2-18破砕帯に連続すると評価した。

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
H27-B-2	-	-	㊸	128.82	128.97	N28E		81E		有	無	20R	RL			f-b-2-18
-	H24-B14-2	範囲内	①	28.50	28.66	N35E	7	77NW	22	有	有	50R	N, LL		×	f-b14-2-1
			②	38.10	38.27	N58E	30	88SE	7	有	有	57L	N, RL		×	f-b14-2-2
			③	47.37	47.40	N38E	10	85NW	14	無	-	40R	R, RL	※	×	非モデル化
			④	49.24	49.55	N21W	49	21E	60	有	有	17R※	RL		×	非モデル化
		⑤	60.85	61.12	N1E	27	83E	2	無	-	72R	N		×	D-42	
		範囲外	⑥	101.47	101.52	N3E	25	65E	16	無	-	20R	RL		×	非モデル
			⑦	105.54	105.61	N16E	12	84E	3	無	-	12L	LL		×	D-41
			⑧	109.16	109.46	N1W	29	76W	23	有	有	-	N, RL		×	D-1

注)1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

※傾斜方向が逆であり、条線方向の差が45°以上となる

- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内の可能性のあるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの

## 1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・破砕帯名を非モデル化に変更 (No.85)

【理由】走向・傾斜 (No.82)、条線方向 (No.83)、変位センス (No.84) の見直しに伴い、破砕部の連続性を再評価した結果による

【断層連続性評価への影響】あり

## 2. 変更箇所

- a 走向・傾斜を「N21W21E」に変更 (No.82)
- b 条線方向を「17R」、レイク角を「17°北傾斜」に変更 (No.83)
- c 変位センスを「右ずれ -」に変更 (No.84)
- d 再評価の結果、H27-B14-2 深度49.24～49.55mの破砕帯名を「非モデル化」に見直し (No.85)
- e 見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づく図に変更 (No.82,83)
- f 変位センスを「右ずれ」に変更 (No.84)
- g 見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づきブロックサンプル写真・薄片資料写真を上下左右反転 (No.82,83)

H24-B14-2 深度49.24~49.55m 破碎帯名 (No.85) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合  
机上配布資料2  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について  
参考資料2 性状一覧表  
参考2-115頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記 (青太枠)

10. D-29~D-47 破碎帯  
No.85 一覧表 (9/10)

D-番号	破碎帯番号	深度 (m)	方位	傾斜 (度)	層厚 (m)	性状	平滑さ	余線	方位セン	写真	No.85
D-44	H27-B-2 (No.83で説明)	128.82	128.97	N20E	81E	0.5	無	20R	右	129	(No.84で説明)
D-44	H24-B14-2 (No.83で説明)	49.24	49.55	N44E	80E	25.4	有	非平滑	75L	正	49
a	H20-1 (No.82で説明)						有	非平滑	48L	-	43
D-45	H27-D5-1	25.17	29.44	N31E	81W	4.2	無	80L	正	25	
	H20-1-10 (新置)	48.10	48.24	N6E	77W	3.9	-	80R	-	48	
D-46	H27-D5-1	45.12	49.37	N38E	72W	1.7	有	非平滑	85H	正	45
D-46	H20-1-10 (新置)	55.89	56.05	N34E	83W	1.3	無	5L	-	56	

凡例  
最新活動面 ← → : 破砕帯  
断層ガウジ  
断層角礫  
粘土の鉄在物が認められる箇所  
\*1: 露頭  
\*2: 試掘機

【破砕帯】  
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、  
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の  
合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
【平滑さ】  
平 : 最新活動面が直線的なもの  
非平滑 : 最新活動面が湾曲するもの

参考2-115

D-番号	破碎帯番号	深度 (m)	方位	傾斜 (度)	層厚 (m)	性状	平滑さ	余線	方位セン	写真	No.85				
												最新活動面	破砕帯	断層ガウジ	断層角礫
H24-B14-2 (No.84)	①	28.50	28.68	N33E	77NW	10.3	有	有	有	0.1	有	50R	正	F4-B14-2-1	28
H24-B14-2 (No.84)	②	38.10	38.27	N58E	88SE	13.0	有	有	有	フィルム状	有	57L	正	F4-B14-2-2	38
H24-B14-2 (No.84)	③	47.37	47.47				-	40R	逆	a					47
H24-B14-2 (No.84)	④	49.24	49.55	N21W	21E	25.4	有	有	有	2.5	有	17R	正	F4-B14-2-4	49
H24-B14-2 (No.84)															60
H24-B14-2 (No.84)															62
H24-B14-2 (No.84)	⑤	101.47	101.52	N3E	65E	4.5	無	無	無	-	-	20R	-	F4-B14-2-5	101
H24-B14-2 (No.84)	⑥	105.54	105.61	N18E	84E	4.8	無	無	無	-	-	12L	-	D-41	105
H24-B14-2 (No.84)	⑦	109.18	109.48	N1W	70W	7.8	有	有	有	1.0	有	18	正	D-1	109

凡例  
最新活動面 ← → : 破砕帯  
断層ガウジ  
断層角礫  
カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載  
※3 卓越しない成分については「-」を記載 (両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
-(上記以外) : データを取得していない箇所

H24-B14-2 深度49.24~49.55m 破砕帯名 (No.85) の変更

• 変更後のデータを用いて当該破砕部と周辺の破砕部との連続性を再評価し、非モデル破砕部と評価した。

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等注)1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
H24-B14-2	-	-	④	49.24	49.55	N21W		21E		有	有	17R	RL			非モデル化
-	H27-B-2	範囲内	①	31.15	31.66	N7E	28	78W	81	有	無	80L	N		×	非モデル化
			②	34.37	34.48	N18E	39	46W	113	有	無	0	LL		×	非モデル化
			③	35.36	35.46	N69E	90	79N	80	無	-	10R	RL		×	非モデル化
			④	35.68	35.73	N7W	14	52W	107	有	無	70R	N		×	非モデル化
			⑤	35.92	35.95	N4E	25	86E	65	無	-	50L	N, RL		×	非モデル化
			⑥	48.08	48.12	N38W	17	15NE	6	無	-	0	LL		×	非モデル化
			⑦	54.72	54.77	N8W	13	79W	80	有	無	0	LL		×	非モデル化
			⑧	60.26	60.69	N31E	52	88SE	67	無	-	75L	N		×	非モデル化
			⑨	61.29	61.69	N8E	29	89W	70	有	有	90	N		×	D-1
			⑩	63.75	63.85	N47W	26	24NE	3	無	-	36L	R, LL		×	非モデル化
			⑪	68.02	68.06	N23E	44	74W	85	無	-	90	N		×	非モデル化
			⑫	85.58	85.76	N20E	41	89E	68	無	-	15L	RL		×	非モデル化
			⑬	88.38	88.43	N26E	47	84E	63	有	無	30L	N, RL		×	D-41
			⑭	88.88	88.94	N35E	56	72NW	87	有	有	25L	N, RL		×	f-b-2-14
			⑮	91.69	91.76	N5W	16	82W	77	無	-	30R	R, RL		×	非モデル化
		範囲外	⑯	120.63	120.65	N34E	55	77NW	82	無	-	30L	R, LL		×	非モデル化
			⑰	127.41	127.48	N18E	39	82E	61	無	-	20L	RL		×	D-42
			⑱	128.82	128.97	N28E	49	81E	60	有	無	20R	RL		×	f-b-2-18
			⑲	133.75	133.92	N6E	27	84E	63	無	-	22L	RL		×	非モデル化
			⑳	134.15	134.23	N12E	33	66E	45	有	有	82L	N		×	f-b-2-20
			㉑	152.10	152.15	N28E	49	84E	63	無	-	30L	R, LL		×	f-b-2-21
			㉒	154.53	154.71	N42E	63	75SE	54	有	有	75R	N		×	f-b-2-22

注)1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内の可能性のあるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの



## 1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・破砕帯名を非モデル化破砕部に変更 (No.87)

【理由】H24-B14-2孔の破砕部データが変更されたことにより破砕部の連続性を再評価した結果による。

【断層連続性評価への影響】あり

## 2. 変更箇所

a 破砕帯名を「非モデル化破砕部」に変更 (No.87)